

1. 果樹 2. 麦類 3. 稻 4. 野菜

1. 宮城県 2. 青森県 3. 福島県 4. 岩手県

1. かつて大規模な建物が立ち並んでいた中野五丁目付近では、自然環境を保護するために広大な田畑へと土地利用が変化した。
2. 港二丁目付近では、1998年時点で存在していた工場が、2025年には神社を中心とした伝統的な集落へと変化した。
3. 仙台市宮城野区全体において、急速な過疎化の影響で住宅地が激減し、かつての森林や山林が復元される変化が見られた。
4. かつて集落や田畑が広がっていた中野五丁目付近では、都市再開発や震災復興によって大規模な建物へと土地利用が変化した。

1. 中部地方 2. 関東地方 3. 東北地方 4. 近畿地方

宮城県公立入試 類似)

1. 主要な都市が東京と直結されることで、地方都市の機能がすべて都心部へ集約され、地域独自の産業が衰退する。	2. 網目状の交通網が形成されることで、都市間の結びつきが強まり、移動時間の短縮や地域交流の活性化が期待される。	3. 南北の移動のみが高速化されることで、沿岸部と内陸部の経済的な格差を広げ、地域間の交流を減少させる。	4. 道路の維持管理コストを削減するために、利用者の多い一部の幹線道路にのみ交通を集中させ、移動手段を限定する。
--	--	--	--

1. 奥羽山脈の東側に位置しており、夏に吹く冷たく湿った「やませ」の影響を避けるために、果樹栽培を主な産業としている。

2. 人口密度が非常に高く、卸売業の拠点が集中しているため、県外から仕入れた米を加工して出荷する製造業が産業の中心である。

3. 奥羽山脈の西側に位置して冬の降雪量が多く、その雪解け水を農業用水として利用することで大規模な稲作が行われている。

4. 日本海を流れる暖流の影響で冬も温暖であり、降雪がほとんどないため、一年を通じて野菜を栽培する二毛作が普及している。

1. 九州地方 2. 近畿地方 3. 東北地方 4. 北海道地方

1. 1982年に東北新幹線が開通したが、県内には新幹線の駅が1つしか設置されておらず、主に各駅停車が中心の輸送体系となっている。
2. 県庁所在地の仙台市は人口100万人を超える政令指定都市であり、市街地には地下鉄が走り、豊かな街路樹が見られる。
3. 県庁所在地のターミナル駅はバスの乗り入れが制限されており、中心市街地の移動は路面電車が唯一の手段となっている。
4. 県内の鉄道は南北方向にのみ敷設されており、西側に位置する奥羽山脈を越えて山形県などの隣県へ向かう路線は存在しない。

1. 半導体の製造には大量の輸入資源が必要なため、高速道路を通じて大規模な港湾から直接原料を運ぶ必要があるから	2. 半導体工場は騒音や振動が激しいため、住民の少ない高速道路沿いや山間部に限定して建設が許可されているから	3. 半導体は小型・軽量で付加価値が高いため、トラックを利用した高速道路による迅速な輸送に適しているから	4. 半導体の製造には広大な敷地が必要であり、地価の高い県庁所在地を避けて高速道路沿いの広大な農地を転用したから
---	--	--	--

1. 富士山型からつぼ型へ 2. つぼ型から富士山型へ 3. つりがね型から星型へ 4. ひょうたん型からつりがね型へ

(2021年 和歌山県公立入試 類似)

1. 台風の接近数が平年よりも多かったため、強風によって収穫直前の果実が落下する被害が出た。	2. 日照不足と低温によって稲の生育が著しく妨げられ、記録的な米の不作（冷害）となった。	3. 日照時間は短かったものの気温は平年より高かったため、病害虫が発生して野菜の価格が高騰した。	4. 梅雨前線の活動が活発で降水量が平年を大きく上回ったため、大規模な洪水被害が発生した。
--	--	--	---

1. 都市A：千葉市、都市B：堺市 2. 都市A：仙台市、都市B：広島市 3. 都市A：広島市、都市B：仙台市 4. 都市A：京都市、都市B：広島市

答え合わせ・解説

問1	答え 1 果樹	東北地方では、県ごとに特色ある農業が行われています。青森県ではりんご、山形県ではさくらんぼ、福島県では桃といったように、特定の農産物を重点的に生産する傾向があります。これらの作物は「果樹」に分類され、当該県における栽培面積の割合も、他の東北3県（岩手・秋田・宮城）と比較して高くなっているのが特徴です。
問2	答え 1 宮城県	宮城県は東北地方の政治・経済の中心地としての役割を担っています。県庁所在地の仙台市は、東北地方で唯一の政令指定都市であり、多くの企業が集まることで、製造品出荷額や年間商品販売額が他県を大きく上回る突出した値となっています。この統計上の特徴は、宮城県が東北地方における広域中心県であることを示しています。
問3	答え 4 かつて集落や田畑が広がっていた中野五丁目付近では、都市再開発や震災復興によって大規模な建物へと土地利用が変化した。	複数の年次の地形図を比較すると、その地域の景観や土地の使われ方（土地利用）がどのように変化したかを読み取ることができます。仙台市宮城野区の事例では、1998年時点では農業や小規模な居住が中心であった場所が、2020年代には東日本大震災からの復興や都市再開発を経て、商業施設や物流拠点などの大規模な建物へと変化している様子が記録されています。選択肢にある「住宅地の激減」や「工場から伝統的集落への変化」は、実際の土地利用の変化の傾向とは異なります。
問4	答え 3 東北地方	岩手県は本州の北東部に位置し、青森県、秋田県、宮城県、山形県、福島県とともに構成される地方に含まれます。この地方は、中央を奥羽山脈が走り、太平洋側と日本海側で気候や産業に違いが見られるのが特徴です。
問5	答え 2 網目状の交通網が形成されることで、都市間の結びつきが強まり、移動時間の短縮や地域交流の活性化が期待される。	東北地方では、東北自動車道などの南北の幹線に加え、秋田自動車道や釜石自動車道といった東西を結ぶ横断路線、さらに三陸沿岸道路などの路線の整備が進みました。これにより、地域全体が網目状に結ばれることになり、内陸と沿岸、あるいは都市間の移動時間が大幅に短縮されました。これは物流の効率化や観光振興、災害時の緊急輸送路の確保など、多方面で地域活性化に寄与しています。
問6	答え 3 奥羽山脈の西側に位置して冬の降雪量が多く、その雪解け水を農業用水として利用することで大規模な稲作が行われている。	秋田県は奥羽山脈の西側に位置するため、冬の北西の季節風の影響で多くの雪が降ります。この豊富な積雪は、春先の稲作に必要な農業用水の供給源となります。また、八郎潟の干拓などに代表される大規模な農地整備も行われており、農業産出額の約6割を米が占める全国有数の米どころとなっています。
問7	答え 3 東北地方	奥羽山脈や各平野などの地形、冷涼な気候を活かした稲作が非常に盛んであり、庄内平野や秋田平野などの全国的な穀倉地帯を有しています。また、青森県のりんごや山形県のさくらんぼといった果実の栽培も盛んであり、これらが農業産出額において大きな割合を占めているのが特徴です。工業面では、高速道路沿いへの工場進出などは見られるものの、日本最大の工業地帯を持つ関東や中部と比較すると、生産額の規模は相対的に小さくなります。
問8	答え 2 県庁所在地の仙台市は人口100万人を超える政令指定都市であり、市街地には地下鉄が走り、豊かな街路樹が見られる。	宮城県の県庁所在地である仙台市は、東北地方で唯一の政令指定都市であり、約109万人の人口を抱えています。交通面では、1982年に開通した東北新幹線の駅が県内に4駅設置されているほか、仙台市内には地下鉄も整備されています。また、美しい街路樹が立ち並ぶ景観から「杜の都」とも称される都市の特徴を持っています。
問9	答え 3 半導体は小型・軽量で付加価値が高いため、トラックを利用した高速道路による迅速な輸送に適しているから	半導体は「産業のコメ」とも呼ばれ、製品が小さく軽い一方で非常に価格が高い（付加価値が高い）という特徴があります。そのため、船や鉄道による大量輸送よりも、高速道路を利用したトラック輸送によって、必要な時に迅速に製品を運ぶことが重視されます。東北地方では東北自動車道などの高速道路網の整備に伴い、内陸部のインターチェンジ付近への工場進出が相次ぎました。
問10	答え 1 富士山型からつぼ型へ	人口構成の変化は、多産多死に近い状態から少子高齢化へと進みます。1980年頃の若年層が多い状態は底辺が広い「富士山型」の特徴に通じ、近年の少子化により子供の数が減り、高齢者が増えた状態は「つぼ型」と呼ばれます。「つりがね型」はその中間の時期（2000年頃など）に見られる形状です。
問11	答え 2 日照不足と低温によって稲の生育が著しく妨げられ、記録的な米の不作（冷害）となった。	1993年は「平成の米騒動」と呼ばれるほど深刻な冷害が発生した年です。統計資料によると、東北地方の太平洋側を中心に、夏場の日照時間が平年の半分程度まで落ち込み、気温も平年より2～3度低い状態が続きました。これにより、主食である稲の開花や実りに必要な熱量・光が不足し、収穫量が激減しました。この不足分を補うために、タイなどから緊急で米を輸入する事態となりました。
問12	答え 2 都市A：仙台市、都市B：広島市	東京からの距離が約303kmで東北地方の拠点都市である都市Aは仙台市です。一方、東京からの距離が約682kmと離れており、自動車工業などが発達して工業製造品出荷額が非常に大きい都市Bは広島市となります。